

「急に呼び出してごめんね、  
ちよつと買い出ししたくてさ荷物多くなるから  
和幸君に助けてほしくてね、  
ご飯ごちそうするからさ」



「いえ…全然お安い御用ですよ  
僕暇なので(笑)」  
僕の名前は和幸 現在絶賛フリーター

この人は僕の親友の母親

麻生順子「あそう じゅんこ」さん

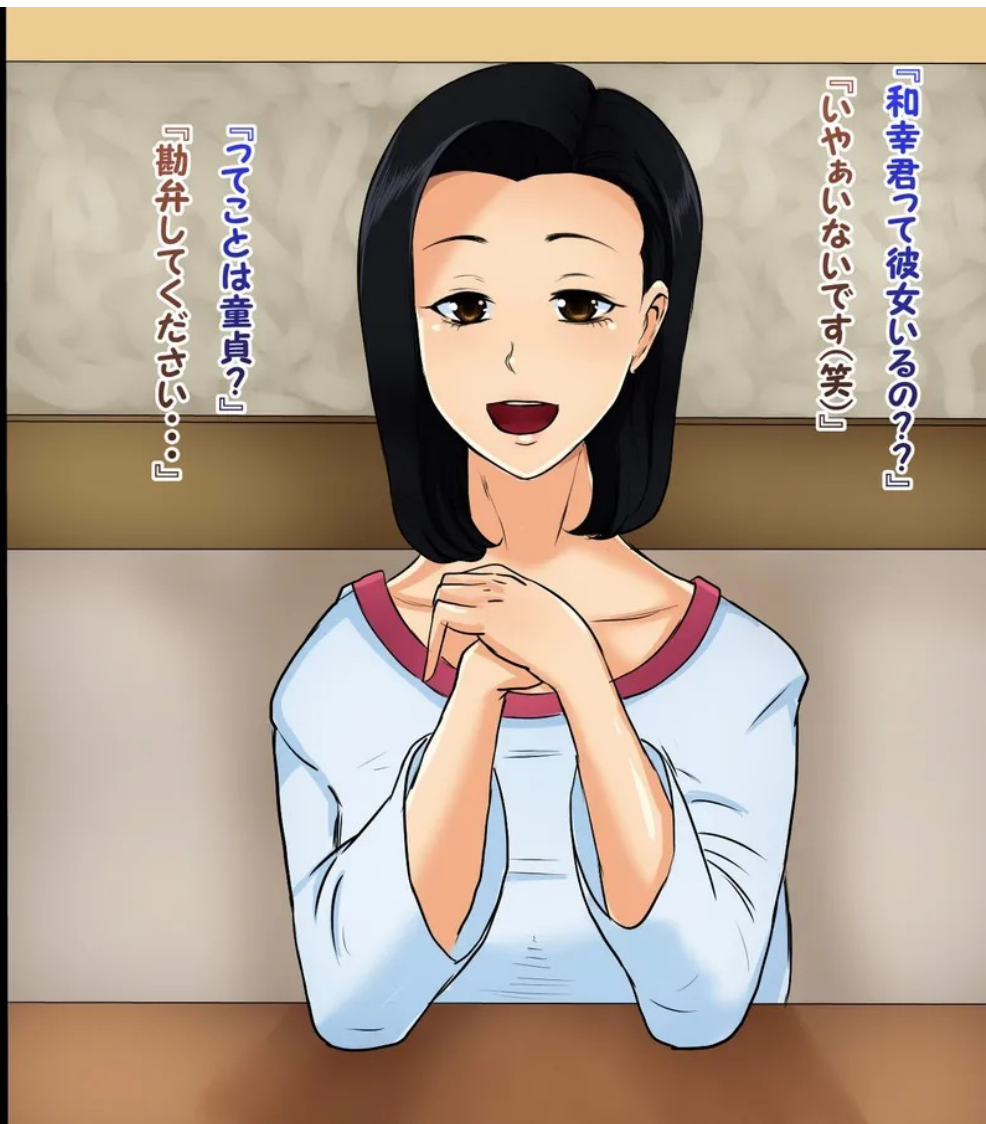
息子が就職し家を離れた寂しさか  
最近ちよちよく僕を呼び出す

そして実は…僕はこの人に恋をしてる…



『か は は は は は』

どうして僕が順子さんに惚れているかというと



『和幸君って彼女いるの？』

『いやあいいんです(笑)』

『つてこそは童貞？』

『勘弁してください。。。』

昔僕が小さいころ  
順子さんの強烈なオナニーをみてしまい  
それが今も色鮮やかな鮮麗な記憶として残っているわけで……

ブシヤッブシヤッ

はあ

あ

順子さんのムキムキな熟女ボディを  
おかずに何千発抜いたことか……  
それ以来僕は女の子という雰囲気  
なるもの  
どうしても好きにはなれず  
順子さんの影を追い続ける日々なわけで……



「私ちよつと寄るところがあるから  
和幸君悪いんだけど先に帰って  
荷物置いていくれる？」

『わかりました』

『今日も泊まっていくわよね？  
一緒にお酒飲みましょ』

最近  
旦那さんが泊まりの仕事が多く  
順子さんの晩酌のお供も僕の仕事と  
なりつつある

誰もいない家に  
置いておくとか  
大丈夫なのか  
麻生家

なん？  
なんだ  
これ？

この日記のようなものには  
こう綴ってあった

もう旦那とも何年セックスしスなのだろうか…  
年齢と共に衰える体力  
それと反比例するように加速する私の性欲  
昔から思っていたことだけど  
可愛かった和幸君が日々男らしくなくなりもうたまらない…  
彼のおちんぼがほしい  
セックスしたい…友達の子供だけじゃ  
もう彼のことか一人の異性としてしか見れない  
こんなおばさんを女としてみるわけないのはわかるけど  
それでも彼が私をエロい目で見てくるときはうれしい  
こんな私ならいくらでもセックスしちゃう  
欲しいもうムラムラムが止まらない

なんだこれは……………  
本当にあの順子さんが書いたものなのか…



# その夜

僕にはそれを確かめる余裕などなく。。。。。。。。



もう目と鼻の先  
およそ布二枚を超えれば  
順子さんの生オマンコが……



だめだ……この誘惑にはもう勝てない  
あの日記が順子さんの本当の想いじゃなくても  
もう僕はこの人を夜這いせずにはいられない

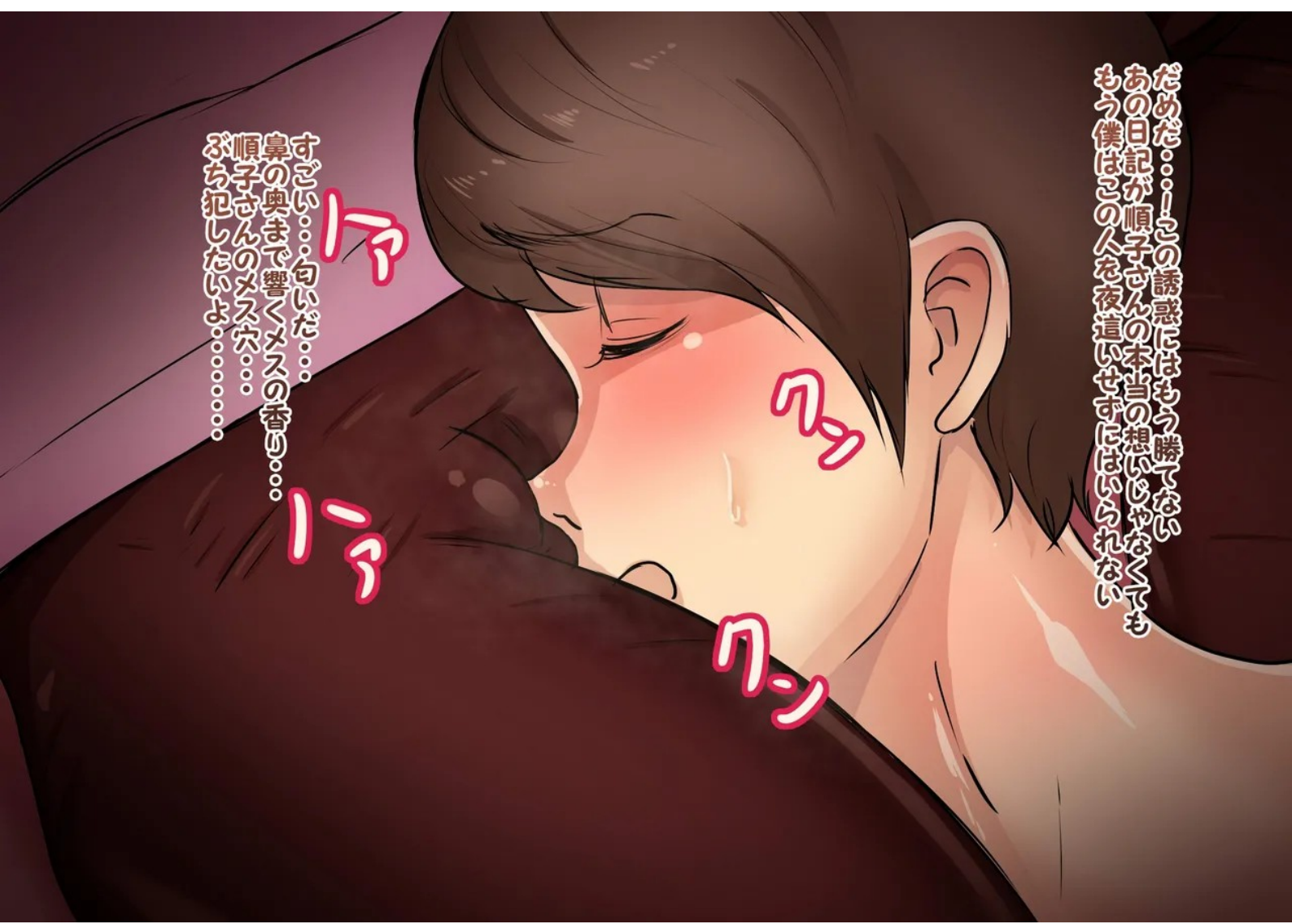
すごい……匂いだ……  
鼻の奥まで響くメスの香り……  
順子さんのメス穴……  
ぶち犯したいよ……

ハァ

ハァ

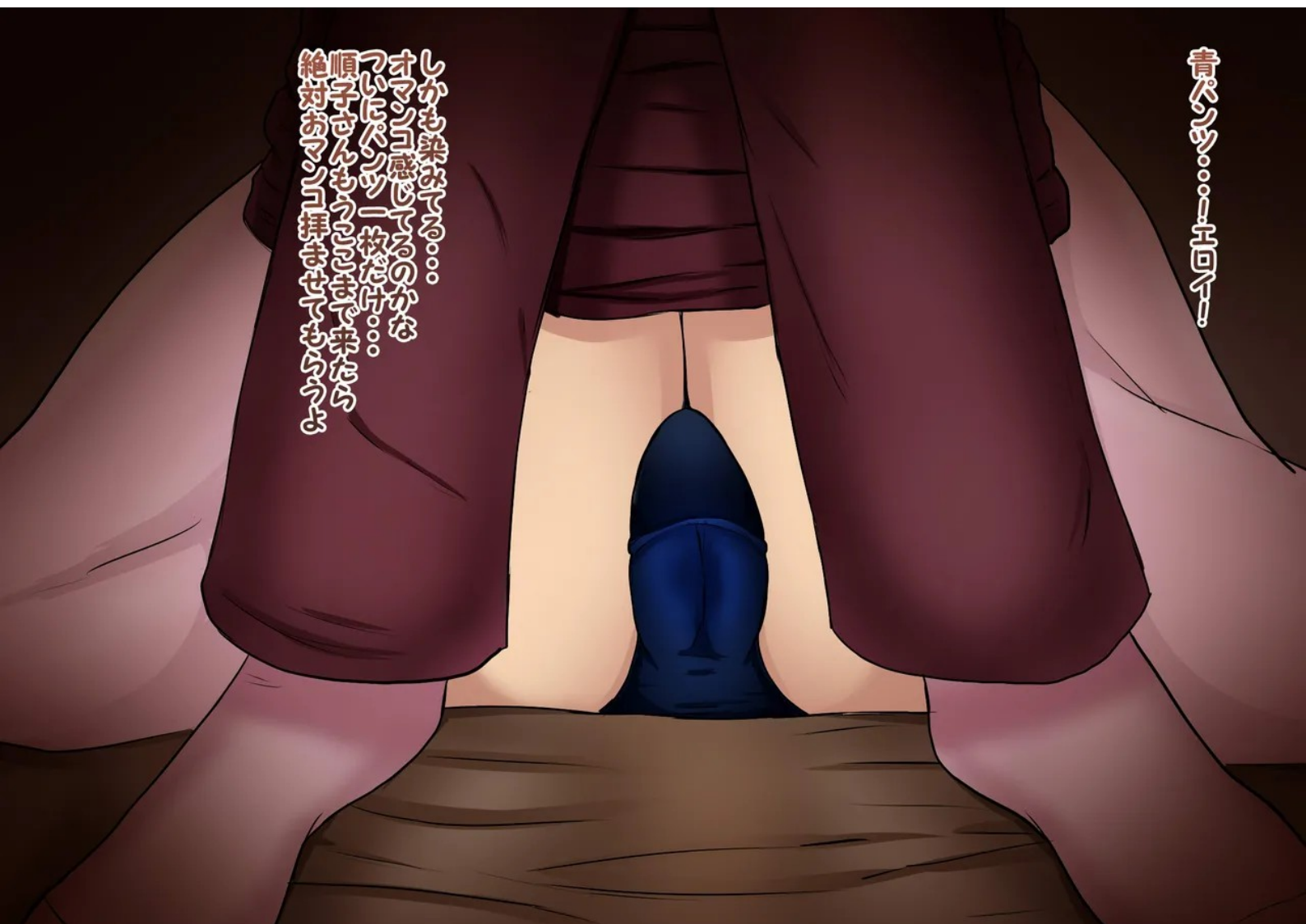
クッ

クッ



青い……おっぱい

しかも染みてる……  
オマンコ感じてたのかな  
ついにパンツ一枚だけ……  
順子さんもついに来たら  
絶対おマンコ押させてもらうよ



うおおお！これが順子さんのマンコ！

綺麗だ…四十代とは思えないオマンコだ  
なんておいしそうをマンコなんだ

ハパアアア

マン毛も少し剃り残しがある…  
セックスレスだから雑になっちゃってるのかな

オマンコいただきます！  
順子さん！僕のファーストキス  
受け取ってください！いいいいいいいい！！

ハッ

ッ  
ッ

美味しい！  
これがマン汁！  
極上だ！突かれた仕事終りにシッコキで  
グビッと飲み干したいくらいだ



なに…あそびがむずむずする…？



ん……ん……

なにこれえううう？

チュッ

チュッ

和幸君ううなんで私のあそびを…  
なんでクンニしてるの？  
わたし和幸君に夜道いせれちゃうの？





あ、なるほどあの日記を見たのね……  
そう……あのわざと出しておいた日記を  
そうね和幸君あなたが日頃から私をえつろい目で見てるのは  
気づいてたわ  
嘘ばっか日記だけど私があなたとセックスしたいのは本当♪  
やばい……すっごい濡れちゃってる……  
欲しい……和幸君のおちんぽ♪息子の親友に犯されちゃう

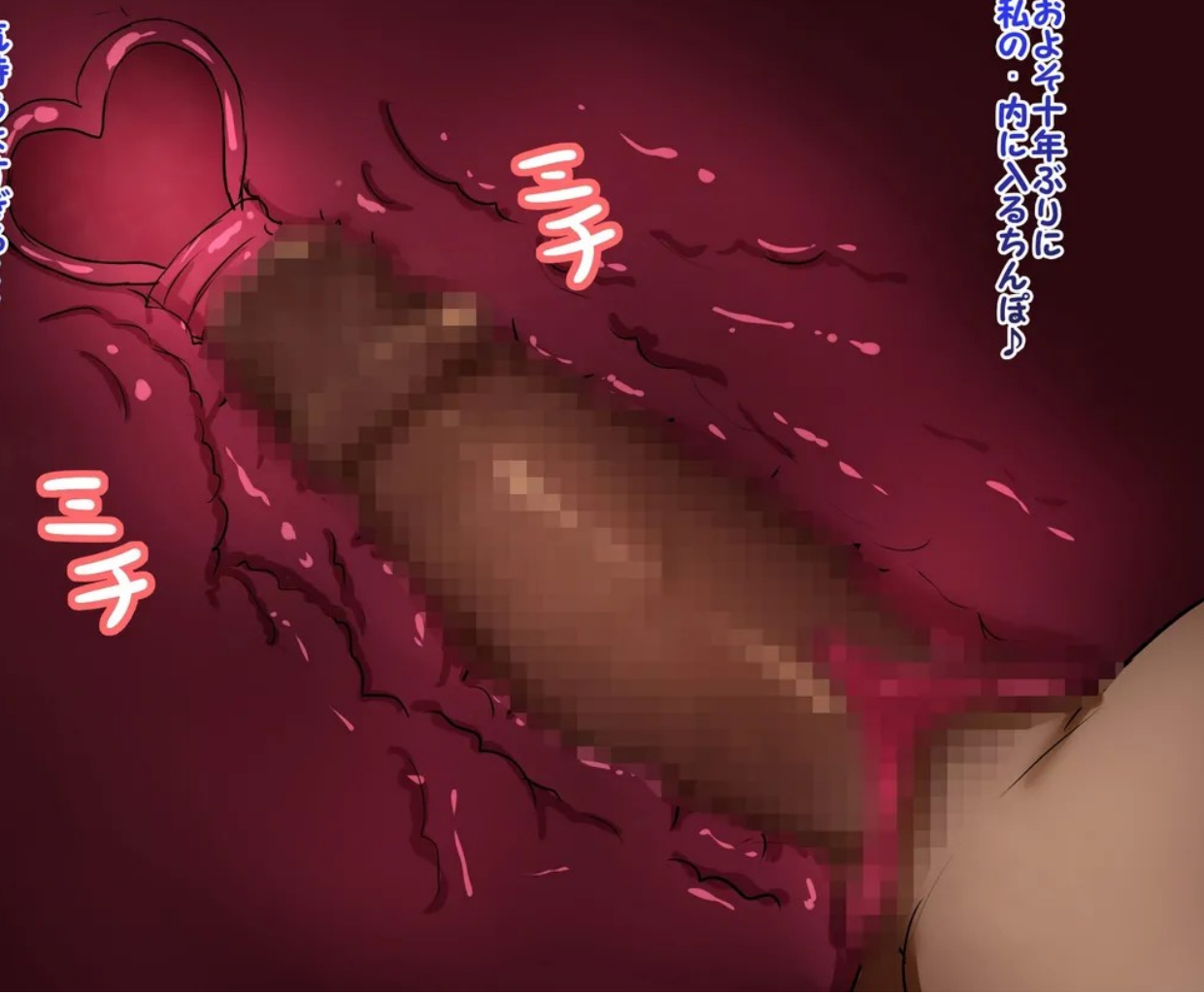
何年何十年ぶりのセックス？  
旦那一筋で生きてきた私でもあの人ももう動かないし  
いいわよね 若い子のフレッシュなおちんぽもらっちゃって  
こんな状況で我慢できない  
来なさい♪覚悟はできるわ  
和幸君生でおばさんのオマニコにぶち込みなさい♪

ううううん♪くるん♪  
息子の親友ちゃんぽん♪

ズパッパッ



およそ十年ぶりに  
私の・内に入るちゃんぽん



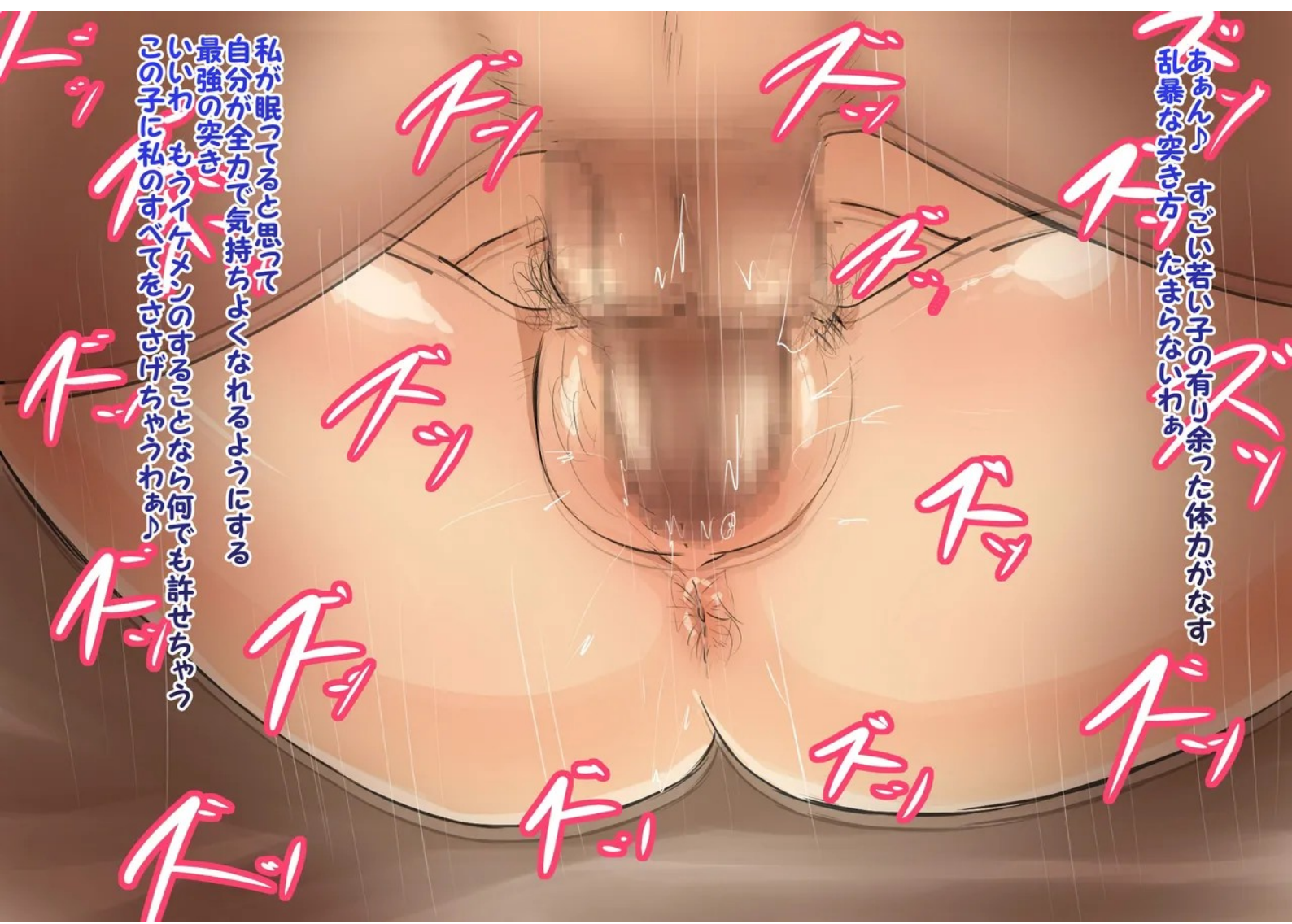
気持ちよすぎる...  
こんなの...この子のイケメンちゃんは何じゃ生きていける  
ちゃんぽん最高 ちゃんぽん最高すぎるわっ

ニチ

ニチ

ああん、すごい若い子の有り余った体力がなす  
乱暴な突き方、たまらないわあ

私が眠ってると思って  
自分が全力で気持ちよくなれるようにする  
最強の突き  
いいわ、もうイケメンのすることなら何でも許せちゃう  
この子に私のすべてをさせあげちゃうわあ



可愛い〜一生懸命腰振っちゃってるわ



あんなにぞう我福でまならぬ...

ピク  
ドク  
ピク  
ドク

ドク  
ピク

ドク  
ピク

ドク  
ピク

# 熟女の欲望 解放しちゃう♪

『順子さん。。。起きてたんですか?』  
『当たり前でしょう(笑)あんなにされて寝てるわけないじゃない』

『ごめんをせい僕。。。こんなこと』

『いいのよ。私も和幸君のおちゃんほが欲しくて欲しくてたまらなかつたんだからあの日記に書いてあったでしょ?』  
『私はあなたの好きなように犯していいのよ。』

『そんなこと言われたら僕。。。もう順子さんしか愛せません。。。旦那さんもいる順子さんを僕だけのメスマンにしていただく必要があります!』



ゴッゴッ

『いいのよそれだいいのよ  
私はあなただけのモノよ！  
和幸君専用のメスマンコになりますッ』

『だから中に……！私の子宮に  
あなたの特濃精子ぶちまけてえええええええ！』

ルルルルルル



「美味し♪  
あなたもこのおちんぽも大好き♪」

「またまたほろろ、  
おちんぽちよつたわ」

これが順子さんの……  
熟女の底なし性欲……!





そして僕の精子は幾度も幾度も搾り取られて…



「あはあん♪いいわあ♪」

パッパッパッ

パッパッ

「ちんぽっ♪ちんぽっ♪」



干からびるまで搾り取られて  
熟女な順子さんに完全敗北

そうして僕らのイケない情事は終わりました。。。

僕もまだまだ鍛えないとこの人とは向き合えないなあと思いました

# おまけ

『二十年前の制服引つ張り出させて  
こんな恰好させるなんてあなたもひどい人ね和幸君』

カシ

『大丈夫ですよ順子さん現役の子に  
負けないくらいかわいいですから  
着てくれたらご褒美に今日はターッぷり犯してあげますね』

カシ

『…おら』







